

女性目線での住まいづくりで新プロジェクト 各方面で活躍する11名がモデルハウスを検討

ポラスグループのポラスマイホームプラザでは、各方面で活躍する11名の女性による住まいづくりプロジェクトを展開している。さいたま市見沼区で計画中的分譲住宅事業において、このプロジェクトで検討した3棟のモデルハウスを建設する計画だ。

ポラスマイホームプラザでは、「埼玉県子育て応援分譲住宅認定制度」の第一号認定を取得するなど、子育て世帯の視点に立った分譲住宅を数多く供給してきた。

そして、今回、新たな取り組みとして、各方面で活躍する11名の女性を招き、3つのモデルハウスを建設するプロジェクトをスタートさせた。プロジェクトの舞台は、同社が分譲住宅の開発計画を進めているさいたま市見沼区。全18棟からなる分譲住宅プロジェクトで、予定販売価格帯は2780万円～3480万円。

全18棟のうち3棟についてはモデルハウスとして活用する。この3棟のモデルハウスのプランニングを11名の女性が担当する。

11名が3グループに分かれて、それぞれ同社の設計担当者などを交えながらモデルハウスのプランを考えていく。



11名の人選に当たっては、プレシャス・マミーの谷亜由未代表取締役の協力

「モデルハウスの品評会を行った時に、それぞれこだわりが強く、様々な意見が出た。それなら実際に作ってみようということになった」と語るプレシャス・マミーの谷代表取締役



それぞれのグループのプランを発表する場を設け、モデルハウス建設に向けてアイデアをブラッシュアップしていく

を仰いだ。

谷氏は、自身の子供を東大に合格させた経験をもとに、「東大脳育成コーチ」として活躍しており、子育て講座や講師育成を全国で展開しているという。

母親、子供、父親の視点で 3棟のモデルハウスを検討

谷氏の人脈などを活用して集まった11名の女性については、カルチャースクールの運営者、カラーセラピスト、ラジオパーソナリティ、インテリアコンサルタント、数学統計学研究者など様々な方面で活躍している。

同社が販売する住宅のモデルハウス品評会への出席をきっかけとして、住宅に対する様々な意見をもらうようになり、今回のプロジェクトへとつながった。

谷氏は「私は自立した脳＝東大脳と位置づけています。東大脳を育てるためには、ハードだけでなくソフトも重要になる。家族が良い関係を保ちながらコミュニケーションをとれるような住宅が子供にも良い影響を及ぼす」と語った。

3つのグループでは、それぞれ異なったコンセプトを掲げて住宅プランを検討していく。具体的には、子育て期の母親を手助けするような工夫を盛り込んだ住宅、子供の成長を促す住宅、そして父親が出来るだけ早く帰ってきたくなるような住宅という3つのテーマに分かれて検討を行っていく方針だ。

モデルハウスの完成は今年9月の予定。同社では、モデルハウスを活用しながら、子育て世帯を中心に訴求していきたい考え。